

秦西小だより

かしこく
やさしく
たくましく



令和2年(2020年) 11月12日 第11号

心をひとつにする素晴らしさ (音楽発表会、音楽集会)

6月に計画していた音楽会、新型コロナウイルスの影響で延期をしていましたが、本校の子どもたちの音楽会に向けた取組や発表の素晴らしさが伝統となっていることや保護者の皆様の期待も大きいことから、何とか芸術の秋に実施できないかと、内容や方法の検討を重ねてきました。



今回は飛沫感染のリスクを考え、歌唱は控え、器楽合奏を中心とした発表にしました。また、密を避けるために、例年のように児童と保護者の皆様が一堂に会した音楽会から、11月2日(月)の保護者の皆様に聴いていただく音楽発表会、11月4日(水)の子どもたちが聴き合う音楽集会を別の日に実施することとしました。

11月2日(月)の音楽発表会には、多くの保護者の皆様にお越しいただきました。お忙しい中、ご参観いただきありがとうございます。

1年生から6年生まで順を追って聴いていただいたことで、6年間の子どもの成長や発達段階がわかっていただけたことと思います。1年生のように、初めて楽器に触れ、メロディーを一人で、あるいは仲間と分担して繋ぐことから始まった演奏も、3年生からリコーダーを手にし、高学年になると大きな編成となり、様々なパートに分かれて演奏するようになりました。リズムをつくる人、メロディーを奏でる人、さらにメロディーを受け継ぐ人、ハーモニーを奏でる人、合いの手を入れるかのようにおしゃれな音を奏でる人等、自分の役割を理解して、仲間と聴き合い、最高の音楽をつくっていきこうとする姿が見られました。仲間との心の通じ合いがあったからこそその演奏です。音楽をつくっていく中で、子どもたちは、仲間との信頼や絆を深めていったといえます。学校に教科として音楽科が位置づけられている意義はここにもあると思います。よい音楽発表会、音楽集会となりました。

短い期間の練習でしたが、よくがんばった子どもたちでした。



坂井さんのコンサート

音楽発表会の後、1年生から4年生の児童は、坂井孝之さんのコンサートを聴きました。坂井さんは2歳の時に失明されました。高校生の時フルートと出会い、練習を重ね、昭和45年に全国盲学生音楽コンクールにて優勝されました。練習は大変だったと思われませんが、私にはその分、磨かれた澄んだ音色に魂がこもっているように感じました。美しく楽しい演奏を聴き、視覚障害者の視点から、ご自身の苦勞されたお話やうれしかったお話なども聞きました。人の優しさ(人権)について考えることができました。

励まし合って最後まで走りきろう (マラソン大会)

業間マラソンに取り組んでいます。私もできる限り外に出て、ゆっくりではありますが歩かずに走り続けることにしています。子どもたちは元気です。多くの子どもがすいすいと私を追い抜いていきます。しかし、そんな私に子どもたちは「先生がんばりや!」「先に行くで!」と声をかけてくれます。秦荘西小学校の子どもたちの優しさを感じます。おそらく、「みんな最後までがんばろう」という気持ちで取り組んでくれるのだろうと想像しています。業間マラソン終了時に「何周走ったの。」と聞くと、7周、8周、9周、…と答えてくれます。子どもたちは、短い時間がんばって走っています。マラソン大会当日の順位も気になるでしょうが、冬を前に、みんなと心を通わせながら自身の体を鍛えてくれることを願っています。